

【都市と美術研究所】 2022年6月28日（火）研究会 発表要旨

ソフト・パワー、都市、そして平和
Soft Power, City and Peace

金敬黙（早稲田大学文学学術院教授）

KIM Kyungmook

Professor, Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

1960年代に芽生えた今日の「平和研究」(peace studies)は暴力の原因を探究し、またその改善や撲滅の追求にある。平和研究においては、「暴力」という概念には直接的(物理的)暴力、構造的暴力、そして文化的暴力があると言われているが、グローバル化が進む現在、多くの暴力は都市部で顕在化する。特に貧困や差別、文化的な摩擦が原因となる構造的暴力ならびに文化的暴力は都市部で顕在化しやすい。言い換えると、都市の問題は平和の問題に直結しているとも言えよう。

報告者は国際関係論を基本的なディシプリンとしつつも、「グローバル・アジア研究」、「トランスナショナル市民社会(NGO)研究」、「平和研究」という学際的なアプローチを軸に今まで研究と実践の両方に携わってきた。実践の面では日本国際ボランティアセンター(JVC)における人道支援や平和構築の調査研究と実働、さらにOxfam Japanの理事、その他市民社会組織や社会運動に直間接的に関わってきた。ここ数年の間には、方法としてのアクション・リサーチの観点からパブリック・ディプロマシーもしくはソフト・パワーの概念に基づく研究に取り組んでいる。本報告では、過去2-3年の研究動向や成果を紹介しつつ、都市と美術研究所のメンバーとの接点をUNESCO世界遺産の批判的再検討やグローバル都市の多文化共生の事例等から模索したい。